

# 北海道カナダ協会の設立に当って

事務局長 伊藤 友晴

北海道の三月は、まだ大地のほとんどが、白い雪におおわれたまま、静かに春の訪れに耳を傾けている季節である。

札幌を代表するライラックが可憐な花をつけ、かくわしい香りを街中に振りまくまでには、しばし、時の到来を待たなければならぬ。

その季節の訪れに先がけ、三月二十二日、札幌市北方圏センターにおいて、北海道とメープル・リーフの国カナダをつなぐ「北海道カナダ協会」の設立総会が、関係者の期待のうちに開催され、多年にわたる準備と努力の花をみごとに開かせた。

総会は、午後六時、発起人を代表する北方圏センター副会長兼専務理事気境公男氏の司会で始められ、協会初代会長に北海道銀行頭取森鼻武芳氏、同副会長に北海道大学教授高桑栄松氏、専務理事に北海道教育大学助教授熊谷直勝氏を選ばれた。

さらに、カナダ大使を初めとする顧問、参与四十五名、商工、観光、医学、酪農、青少年婦人団体、その他各界から理事十七名、監事二名を選出、あわせて規約、事業計画、収支計画等を定め、事務局を札幌市の道銀ビル内に置くことを決めた。

挨拶に立った森鼻会長は「北へ向く日本の窓口ともいえる北海道が、今後北方圏諸国との交流を深め、相互理解と友好の絆をいっそう強固なものとするに、より、明日の大きな飛躍が生れることを信じている。とくにカナダは、北海道にとつて、積雪、寒冷という共通の自然環境を有する国であるのみならず、経済的

にも、石炭、小麦、バルブ等の資源供給国として、また、合板、鉄鋼製品等の輸出先として重要な位置を占めている。今後、文化・スポーツなどを含め、あらゆる面でさらに協力の輪を広げ、友好を深めるために努力したい」と、力強く抱負を語った。

このあと、来賓挨拶として、駐日カナダ大使館ブルース・バーネット副領事ははじめ、北海道伊東康吉開発調整部長、札幌市平瀬徹也助役、さらに北方圏センター東条猛猪会長から、それぞれ心暖まる祝詞が述べられた。

引き続き同センターで開催された祝賀パーティーでは、この日の到来を待ち望んでいた関係者、さらには青年会員、婦人会員、来道カナダ人とそのホスト・ファミリー等多くの人々が、時のたつのを忘れて、遅くまで懇親の語らいを続けていた。

この北海道カナダ協会は、北方圏諸国との友好団体としては、フィンランド、アラスカ、スウェーデンに次ぎ、第四番目の誕生ということになる。

今後、経済交流の促進、講演会、セミナー、映画会、展示会等の開催ならびに後援、相互理解のための資料・情報収集、相互交流に関する行事開催ならびに後援、在日カナダ関係機関との各種情報交換などを事業内容として活動を開始することになる。

会員は個人会員と法人・団体会員の二つからなるが、すでに全道各地からの入会申込みもあり事務局を喜ばせている。

北海道とカナダの交流は、特に一九七二年、堂垣内知事を団長とする経済文化視

察団が派遣されて以降、急速に緊密化し、翌七三年にはアルバータ州での「北海道フェア」の開催、続く七四年札幌で開催された「北方圏環境会議」へのカナダ諸州代表の参加、同年札幌における「アルバータ・フェア」開催と積極的な交流が続き、昨年十一月には、プリティッシュ・コロンビア州における「資源会議」に堂垣内知事が出席、本年一月には、札幌、帯広の二カ所での「アルバータ美術展」が開催されるなど、数多くの実績を残して現在に至っている。

その他、青年・婦人の海外研修、酪農技術者交流、スポーツ指導者の交流、札幌雪まつりの交流と、活動は広い範囲に及んでいる。

このためもあって、すでにカナダを訪れたことのある道民の数も多く、北海道カナダ協会を支える強い力となっている。

気候、風土を同じくする地域の人が、相互の交流をとおし、互いに知恵を出し合って、北国の新しい生活文化を創造しようではないか、というのが道の提唱する北方圏交流の狙いであるが、カナダを始めとするフィンランド、アラスカ、スウェーデン等の各協会に加え、民間の総合的交流推進機関として、北方圏センター（札幌市）がある。道民の間に、北方圏に

が高まり、情報や資料の収集整備を望む声が多くなってきたことから、それまでであった北方圏調査会の機能を強化して、昨年五月発足した機関である。センターの中には、同時通訳設備を持つ国際会議場がある。本年二月には、ここで十四カ国参加による北方圏ジャーナリスト交流会議が開催され、「あすの生活、文化への課題」「情報交流のすすめ方」「北海道への提言」の三テーマを中心に貴重な意見交換を行ない、大きな成果をあげた。

日本の二十七倍という広大なカナダ。この国を訪れたことのある日本人は、誰もその豊かな天然資源とスケールの大きな自然の景観に打たれるという。

北海道も、美しい自然とのびやかな大地の広がる地帯として知られているが、カナダと同じく冬の厳しさもまた一つの特徴といつてよい。

しかし、道民の生活に、いま雪空の暗さはない。冬季オリンピックを成功させ、寒さを克服し、雪を征しつづ、風土に根ざした豊かな暮らしの芽がすくすくと成長している。

お互いに多くの共通点を持った、カナダと北海道が、ともに協力し発展し続けるため、北海道カナダ協会の持つこれからの役割りは大きい。



「北海道カナダ協会」の設立総会